

まちづくり熊谷 熊谷観光まちづくり基本プラン基礎調査に関する 学生コラボワークショップ 記録（案）

実施日時	平成 29 年 1 月 28 日(土)13:00～16:50
趣 旨	<p>平成 28 年 9 月に実施された「熊谷観光まちづくり基本プラン基礎調査」に係る鼎談の中で、熊谷の今後の観光まちづくりの方向性を表すキーワードとして 3 点挙げられたうちの「連携ネットワーク・まちなかサロン創出」における先導的、試行的な取り組みとして実施した。</p> <p>若者が集まり、日常的な会話の中から熊谷の新しい動きが興ってくるような「サロン」の試行であるとともに、次年度の大下ゼミ生と、「くまちゃれ」の次期リーダー・メンバーが参加することで、単年度に留まらない、持続可能な「連携ネットワーク」の足掛かりになることを期待するとともに、それぞれの視点から、学生ならではの柔軟なアイデアを出し合う事で、今後の活動展開のヒントを得ることを目標にした。</p>
スケジュール	<p>12:10～12:50 昼食：熊谷うどん</p> <p>13:00～13:30 スポーツ文化公園周辺見学(車内より)</p> <p>13:40～15:05 まちあるき実地調査 星川周辺を中心とした熊谷市中心市街地のまちあるき調査 * 帝京大生のみ。2 班に分かれ、白地図を手に自由に調査。</p> <p>15:05～16:50 ワークショップ @本町駐車場 2 階 会議室</p> <p>17:10～ 意見交換会</p>
対象範囲	星川周辺：埼玉りそな銀行～星溪園あたりを中心に
出席者 (敬称略)	<p>熊谷学生サークル「くまちゃれ」： 田ヶ谷、滝沢、内田、井桁、長谷川、持田</p> <p>帝京大学在学学生： 柏木、松本(健)、松本(拓)、丸山、趙、加藤、室伏</p> <p>元町子供会： 中島</p> <p>まちづくり熊谷： 小島</p> <p>帝京大学教授： 帝京大学経済学部観光経営学科 大下教授</p> <p>まちづくりラボ・サルベージ： 岩田</p>

■ 開 会 ・ 顔 合 わせ

ワークショップ会場の市営本町駐車場会議室にて、あいさつ・顔合わせを行い、班分け、まちあるきの資料配布、ルール説明等を行った。

<A 班> 7 名 帝 京 大 : ◎○柏木、松本(拓)、室伏、趙
くまちゃれ： 滝沢、○長谷川、持田

<B 班> 6 名 帝 京 大 : 丸山、松本(健)、加藤
くまちゃれ： ○田ヶ谷、内田、○井桁
(サポート： ◎岩田)

◎印がファシリテーター、○印が発表者

■現地視察

13:40~15:05 まちあるき実地調査



■ワークショップ

15:05~16:50 A、Bの2班に分かれてのワークショップ



<A班>



<B班>



< A班 >



星川通り

【お店】

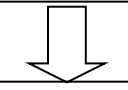
- 大人が行くようなお店が多い
- 食べ歩きできるような店が少ない
- カラオケくらいしか若者向の店がない
- 学生の好みそうな場所がない



- 星川通り MAP の作成
- 食べ歩きできそうなお店をつくる
- 若者向の店を増やし営業時間伸ばす
- 学習室 Café

【雰囲気】

- 人が少ない
- そもそも星川通りに行かない
- キレイだが特徴がない
- 若者広場に若者感がない
- 車通行量が多いため危ない



- まちなかコンサートやライブを開催する
- 街灯等を増やして明るい雰囲気にした
- 夜のお店の主張を抑えてほしい
- 若者広場でダンス等の発表会をする

星川通り

【景観】

- ・まちなかに川があるのはステキ
- ・イスがあつて休憩できる
- ・自然豊か
- ・昼間はわりと静かでゆっくりできる
- ・人が少なく静かで寂しい
- ・トイレの場所が分からない
- ・案内地図が置いてあると良い
- ・時計が鳴ると良い



- ・風物詩をつくる
- ・星川で星を観る

【スポット】

- ・イルミネーションがキレイ
- ・ポケモンGOのスポットがある



- ・スポットとしての広報を増やす
- ・ホコテンホシカワ
- ・Wi-fi
- ・スマホ無料充電所
- ・傘や日傘の貸出
- ・街頭テレビ
- ・ホシカワシアター
- ・ポケモン出現率等も載ったマップをつくる
- ・ホシカワ貸します
- ・イルミネーションを見ながらのバスツアー
- ・ホシカワマラソン
- ・まちなかサッカー(ビーチボール)
- ・うちわまつりの際に山車や屋台のリアルタイム位置情報を発信する

熊谷まちなか

【看板】

- ・面白い看板が多い
- ・ユニークな店が多くみられる



- ・スナック等の看板は控えめにしてほしい
- ・面白スポット探索 SNS
- ・面白い看板を見つけるゲームやアプリ等を開発し全部見つけた人にはプレゼントをあげる

【交通】

- ・車の通りが多い
- ・大通りと川沿いの道のギャップ
- ・人が少なく観光客もいない
- ・高校生をはじめ学生の往来がある



- ・代行運転の車両の駐車スペースがあると良い

【イベント】

- ・ネオンが光りすぎている
- ・まちの案内があると良い
- ・空き店舗が多いので活用できるかもしれない
- ・ラグビータウンという感じが伝わってこない
- ・うちわまつりの活気がすごい



- ・まつり時のように屋台を出してフリマを開催



- ・食体験ができるようにする。
[小麦]刈る→加工→製粉→うどん・ラーメン作る
[野菜]人参やネギで新メニュー開発

【飲食店】

- ・飲食店が点在している
- ・酒場や老舗の建物が多い
- ・川を中心に左右に店が並んでいて楽しめそう
- ・Caféは若者の集客をより見込める
- ・夜になると駅周辺が混雑する
- ・営業していないと思われるお店が多い
- ・行きたいと思える店が少ない
- ・良い老舗が残っている
- ・飲食店はほぼ飲み屋
- ・駅周辺に集中しすぎている

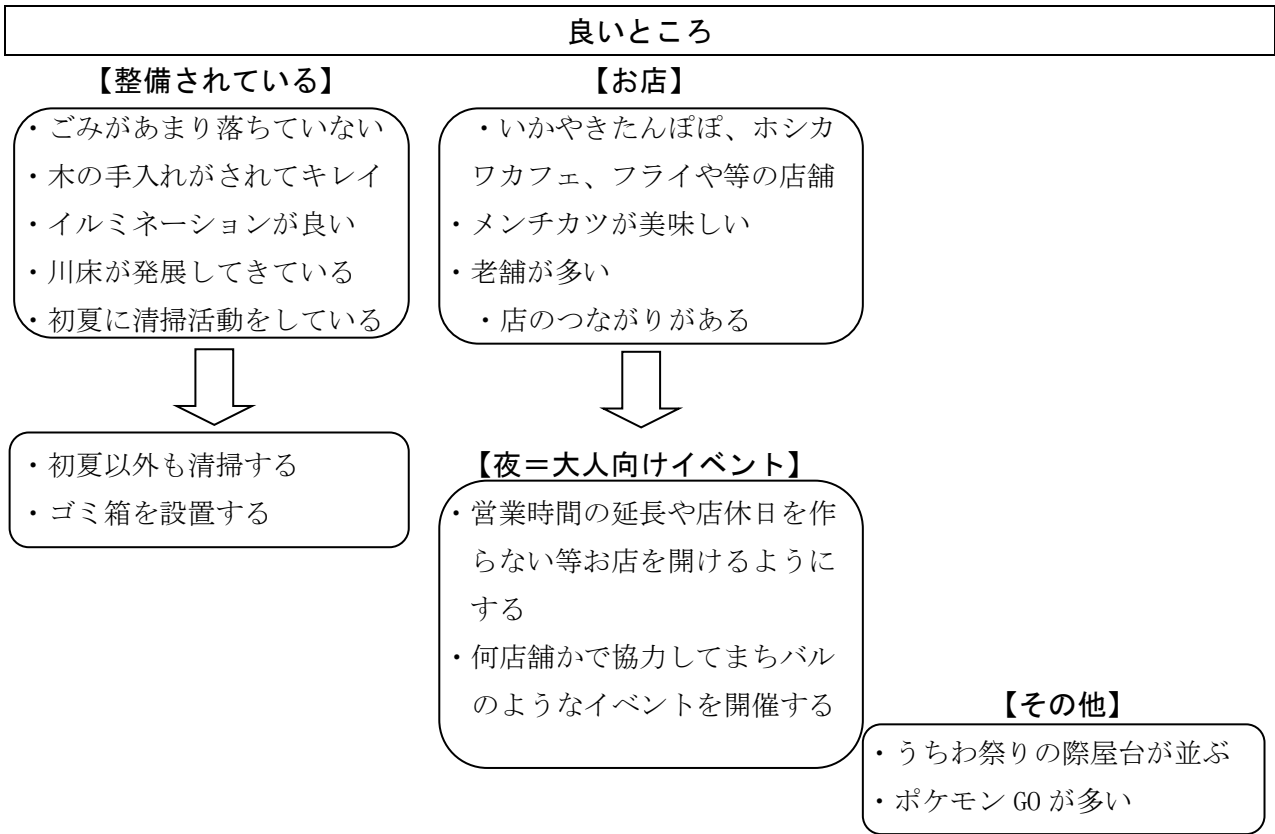


- ・焼きそばフライをB級グルメ化する
- ・中心街にラーメン店がほしい
- ・まちなかキッチン
- ・農産物の直売所ストリート
- ・飲食店でバルのようなイベントを開催する
- ・空き店舗にラグビー観戦のできるスポーツバー
⇒つくる
- ・ファミレスやファストフード店がほしい
- ・服や雑貨等のオシャレなお店がほしい
- ・食べ歩きグルメをつくろう

【空き店舗】

- ・空き店舗と市が提携し高齢者向けCaféにする
- ・学生に貸す会議室にして空き店舗活用
- ・空き店舗で駄菓子専門店を開く

<B班>



【課題：歩道が狭い】

- ・歩道が狭いところがある
- ・川沿いの道が狭く歩きにくい
- ・車通りが近くて立ち止まらなるといけない



【植栽の整備】

- ・川沿いの植物を整備して歩きやすくする
- ・川沿いに桜の木を植える

【課題：人が少ない】

- ・歩いている人が少ない
- ・車も人もあまり多くない



【車との共存】

- [制限]
- ・車両通行時間を設ける等の制限をする
 - ・時間や期間を設定して歩行者天国にする
- [マナー向上]
- ・ドライバーにマナー向上を呼びかける

【課題：店が開いていない】

- ・シャッターが閉まっている店舗が目につく
- ・開いているお店が少ない



- ランチ営業の店を増やす
シャッターが閉まっている店等を自由に使用できるスペースとして貸し出す

【課題：その他】

- ・川沿い一本外れた通りに良い店がある
- ・柵が低すぎる/駅から少し歩く
- ・駐車場が多い



【イベント】

- ・既にある「あおぞら市」を丁度良い市に
 - ・フリーマーケットや藍染体験等のイベントを定期的開催し認知度を高める
- 【AM＝子ども向け】**
- ・小さい子が遊べるイベントをする
 - ・幼稚園や小学生対象に自分達で作り上げるイベントを行う
- 【PM＝学生向け】**
- ・学生が増えるように学割制度を設ける

【モデルコース】

- ・駅から星川沿いのモデルコース提案

【施設】

- ・星川通りの歴史資料館をつくる



【 PR 】

- ・星川通り周辺のホームページを作る
- ・SNS を活用

■感想・総括 帝京大学経済学部観光経営学科 大下 茂 先生

本日は、短い時間でしたが熱心に討議され、検討内容は大変勉強になりました。3つの観点より感想を述べさせていただきます。

(1) 将来への願望・期待によって変わる「良いところ」と「悪いところ」

本日最初に取り組んでいただいた「熊谷の良いところと悪いところ」については、見方によって変わってきます。例えば、「シャッター街となっているところが悪い」と見ずに、「新しいことで活性化に導くことが可能など」という良い方向で捉えることもできます。大切なことは、将来への願望や期待をもつことです。それとのギャップがあるから、悪いと見えているのです。今後の取組み方も含めて、絶えず、『熊谷はこうあって欲しい』という願望・期待を語り合える場となって欲しいと思います。



(2) 因果関係を直視し「原因」を追求すること。解決方法は「1対1」ではなく「N対N」

本日は、現状を改善するための多くの解決策を提案いただきました。原因があって結果が現れています。それが因果関係です。改善すべき結果となった過程を十分に考察し、根源の原因を直視することが大切です。それを改善しない限り、同様のことが起こります。

また、複数の現象をひとつのことで改善できる場合もあるし、逆にひとつの現象の改善に複数の取り組みを投入する必要もあります。問題と解決策は「1対1対応」ではなく、「N対Nの対応」が求められています。本日の議論の成果を深めて、問題となっている現象と改善策とを並べて、つなげてみることで、新しい取り組みが見えてくることもあります。

(3) 若者ができると取組みによる一投石によるまちづくり活動への波紋をつくる

本日のご提案の中に「スポーツバー」や「星川でのミニスポーツイベント」、「SNSによる星川の情報発信」「飲食施設の昼間の有効活用」等、若者ならではの意見が多くありました。中心市街地活性化という大きな命題に正面から取組むと、様々な事業を投入することが必要となります。

本日のテーマであった星川通りで若者ならではの発想を限定的に選び出し、それを具体的にイメージして実験的に取組み、それを「この指とまれ式」に賛同者を募る方式で展開することが、まちづくりへの一投石となり、まちづくり活動に波紋を生むことにつながります。魅力的な景観をつくらせている地域の研究(品川宿)、昼間のランチタイムでの飲食サービスの実施の研究(四街道)等を行い、熊谷で実現可能な取組みを模索し、一点突破でもよいので「自分たちが楽しめる取組み」を見出し、仲間を実現することを目指した取組みが展開されることを期待したいと思います。

以上